

エコプレミアムシンポジウム2015

展開・Expansion

2015年8月5日

慶應義塾大学経済学部

細田衛士

**European Commission - Speech –
Moving towards the circular economy**

Strasbourg, 06 July 2015

Opening remarks by First Vice-President Frans Timmermans in the European Parliament plenary debate on the Sirpa Pietikäinen report

“Thank you Mr. President. First of all this Commission remains strongly committed to presenting to this Parliament towards the end of the year a circular economy package which has a holistic approach on the issue. . . The future of the European economy is in the circular economy, in reusing, in putting things back into the economic cycle, in thinking in terms of cradle to cradle. And funnily enough, businesses have got it better and more clearly than us as politicians. ”

Speech Continuing

“Because the circular economy is not something we do just for the environment. Sustainability of course has an environmental angle. Sustainability has especially an economic and a social angle. And if we don't take the three elements into account – economic, social and environmental – we will not succeed in creating the right conditions for a circular economy. . . . And we should use that opportunity to integrate the three elements of sustainability, economic, social and environmental. And then I believe we will be successful.”

Speech Continuing

“You can count on the Commission that we will take this holistic approach, you can count on the Commission that we will work closely with you, and I'm sure that we can look at those elements especially starting with analysing the situation in Member States and having comparable analysis from Member States that we can take it from a zero situation to the higher levels in the next couple of years and the Commission will certainly be part of that transition.”

このスピーチの意味

- 一旦ECから提出された資源効率性（Resource Efficiency）の政策パッケージは、本年早々取り下げられてしまった。
- 資源効率性や循環経済（Circular Economy）の進展は一体どうなるのか、多くの人々が固唾を飲んで見守っていた。
- そこに出たのが今回のEU副大統領のスピーチ。
- EUの資源循環政策に新たな**展開**が生まれたわけである。
- だからこそ、このスピーチには大きな意味がある。

EUの循環政策のダイナミズム

- EUの循環政策にはダイナミックな面がある。
- 施策の背後にあるコンセプトを明確にし、ステークホルダーと対話を重ね、施策を実行する。
- 一旦出した施策概念が取り下げられることもある。
- 施策に不具合があれば修正をかけ、新たな施策につなげてゆく。
- こうした施策が必ずしもうまく行くとは限らないが、発展の方向性には明確なものがある。

ティーマーマン副大統領の次の言葉に注意！

The future of the European economy is in the circular economy, in reusing, in putting things back into the economic cycle, in thinking in terms of cradle to cradle. And funnily enough, *businesses have got it better and more clearly than us as politicians*. Businesses are leading on this and we should be leading as well as politicians. Why? Because we know where we are. We also know where we want to be which is in the circular economy.

民間ビジネスの素早い動き

- ルノーとスエズエンヴァイロメントの出資でできたINDRAという使用済み自動車（ELV）の解体・破砕・パーツリユースを行う会社の先端的な取り組み。
- 動脈静脈の連携・情報共有で高度なELVリサイクルを行っている。
- INDRAのネットワーク化、ブランド化はELVリサイクルの質を高め、高度な資源の循環利用に貢献している。

INDRA (1)



INDRA (2)



INDRA (3)



INDRA (4)



INDRA (5)

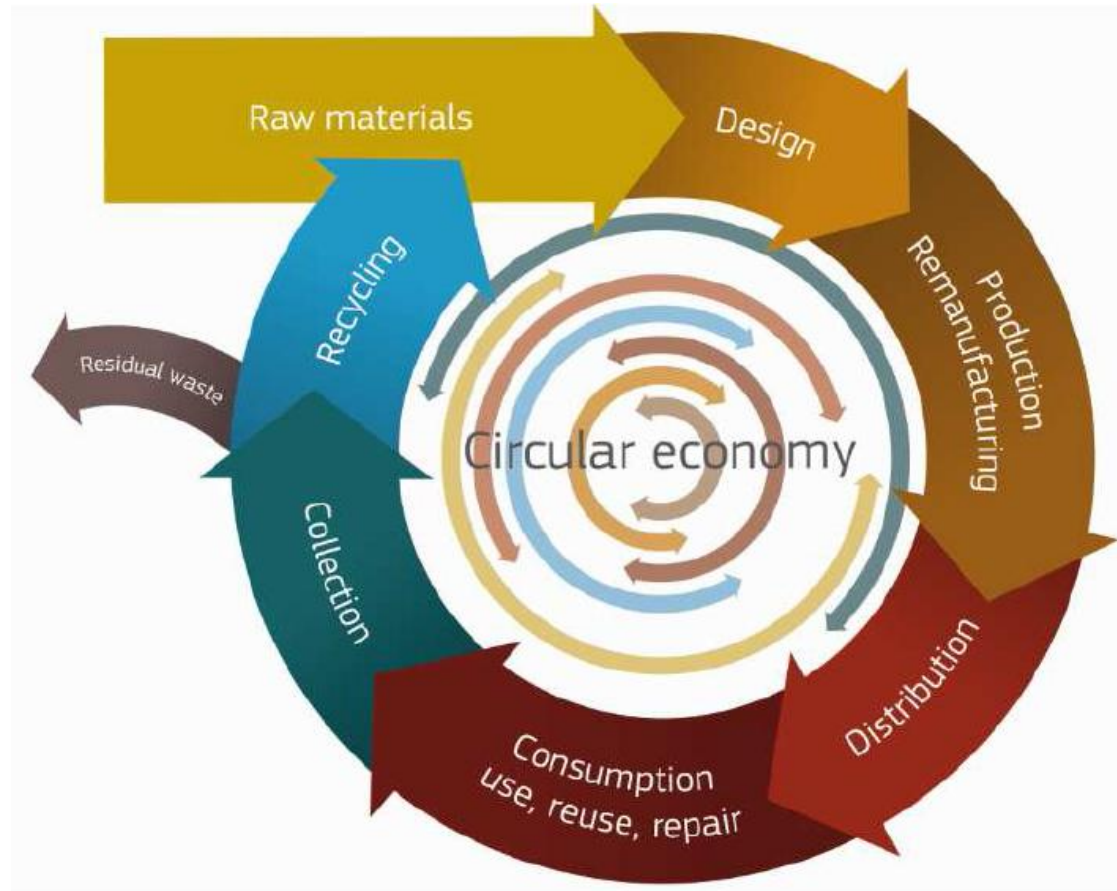


循環経済 (Circular Economy) への道

- EUで廃棄物・リサイクル政策から資源循環政策への転換、新しい展開が始まっている。
- 単に天然資源・エネルギーの循環利用・節約的利用ではなく、経済の活性化、雇用の拡大に向けての展開を図っている。
- 2014年初めまでは資源効率性 (Resource Efficiency) に重きが置かれていたようだが、現在では循環経済 (Circular Economy) の構築に政策の軸足が移っているように見える。

Circular Economy

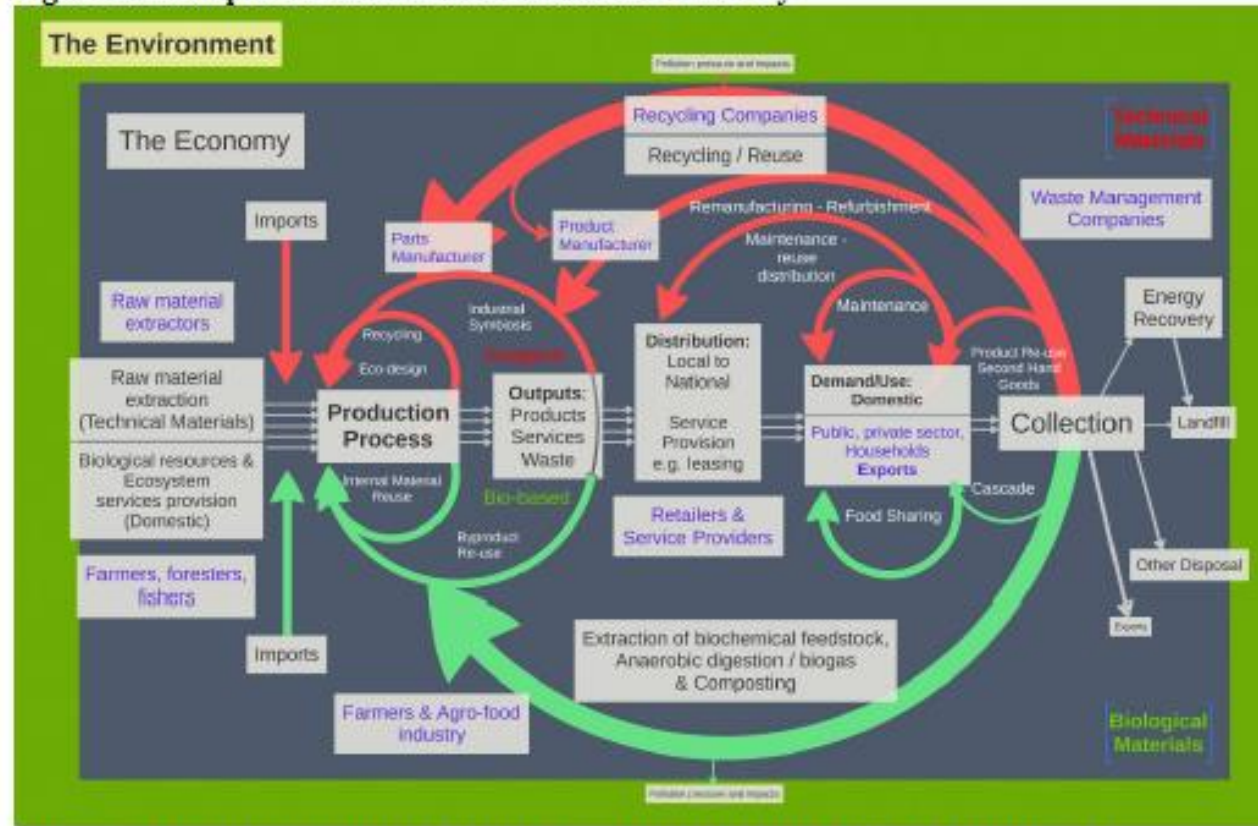
なんだ当たり前と思うなかれ



EU Commission (2014) *Towards a circular economy: A zero waste programme for Europe*より

Circular Economy

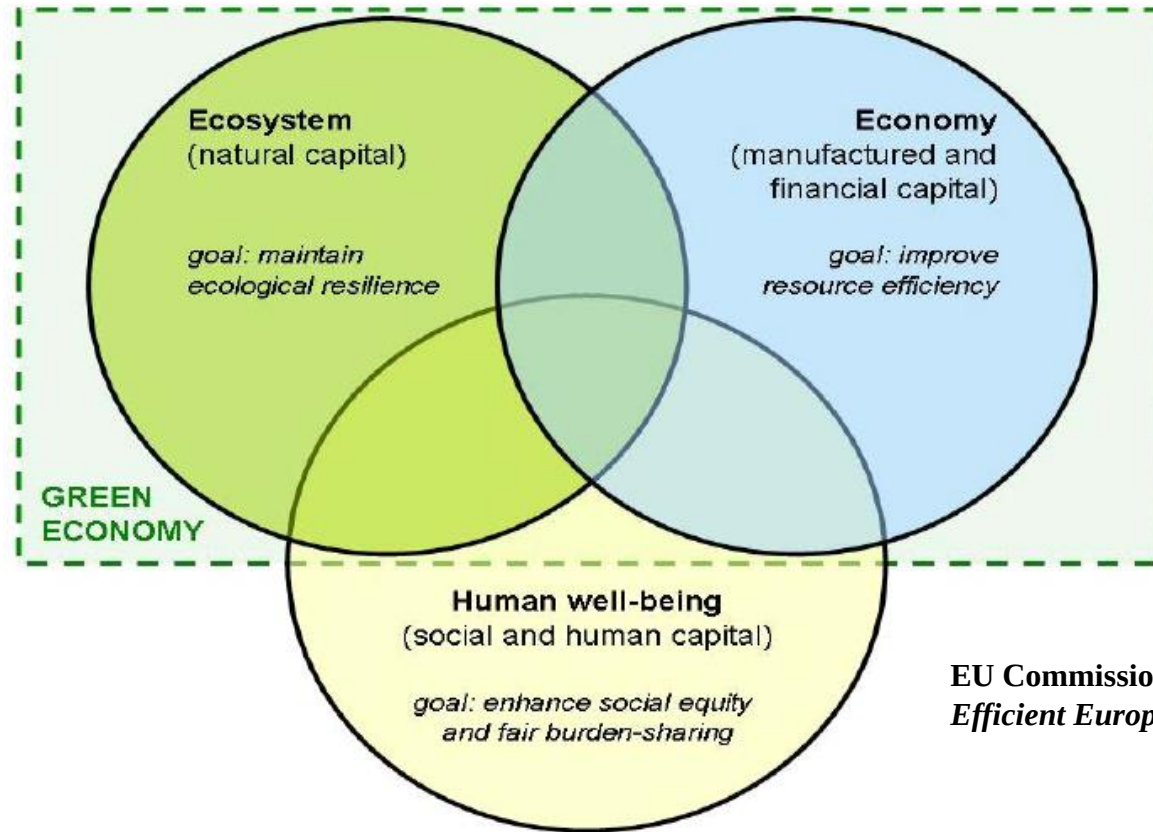
Figure 3: A simplified illustration of a circular economy



EU Commission (2014) *Scoping study to identify potential circular economy actions, priority sectors, material flows and value Chains*より

Source: Own representation, P. ten Brink, P. Razzini, S. Withana and E. van Dijk (IEEPa), 2014

Essence of a Circular Economy

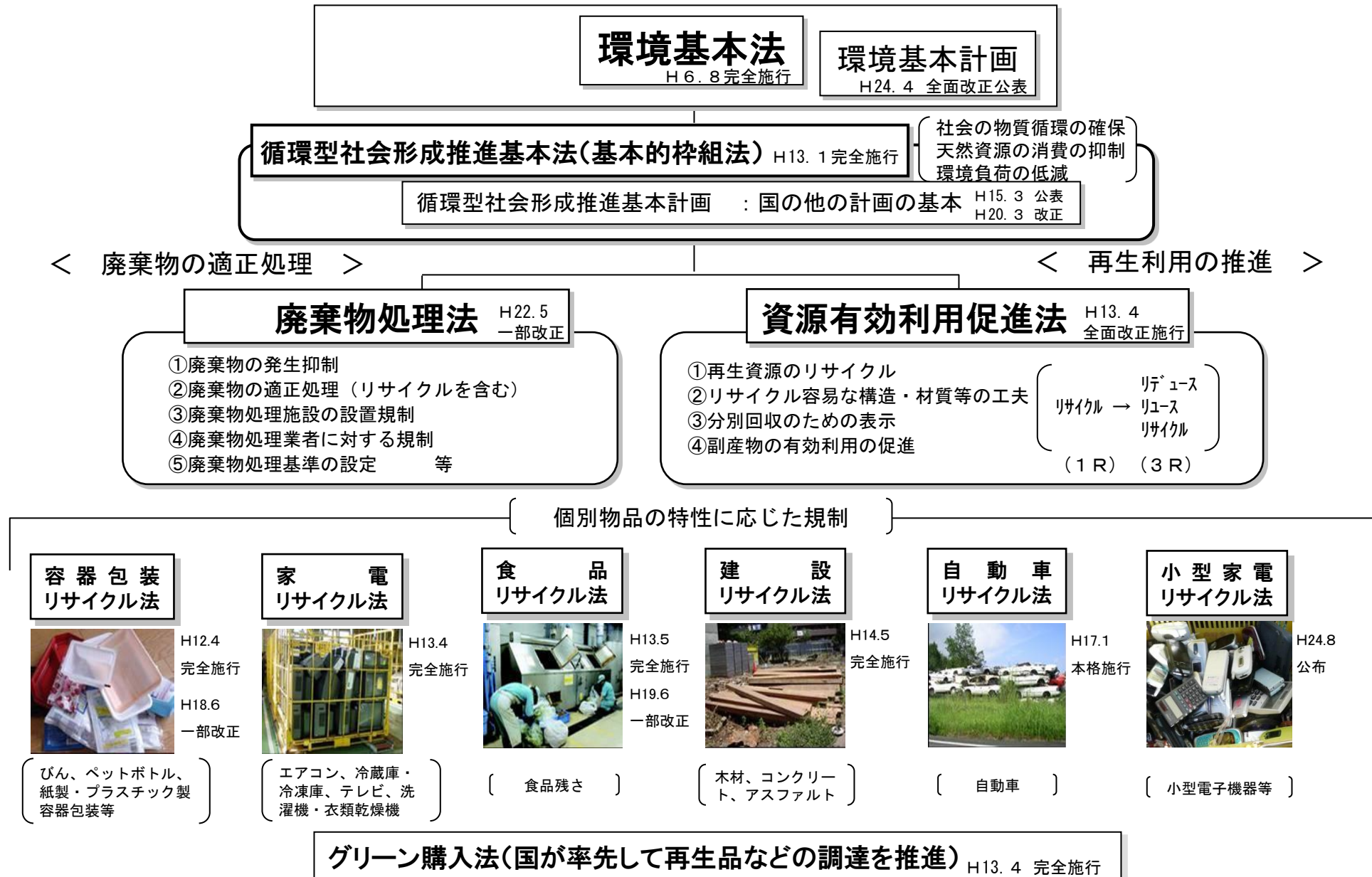


EU Commission (2011) *Roadmap to a Resource Efficient Europe*より

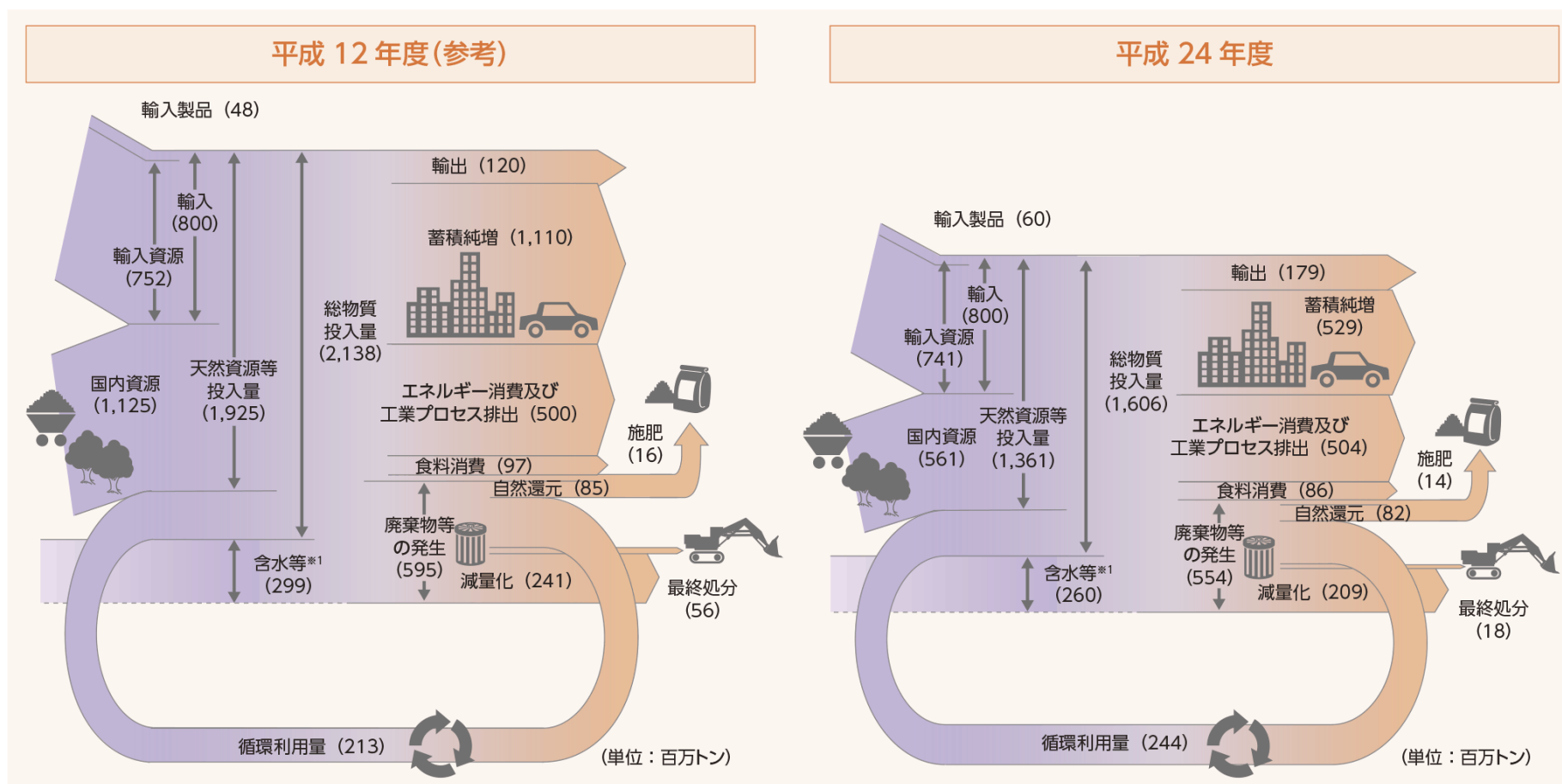
翻って我が国を見ると…

- 資源循環法体系は非常に整備されてきた。
- 循環型社会形成推進基本法、資源有効利用促進法、廃棄物処理法、そして各種個別リサイクル法と、さまざまな法律が整備され、資源循環の枠組みを作り上げている。
- 実際廃棄物排出量、最終処分量（埋め立て量）が減った。
- 資源の循環利用も増加している。

資源循環法体系（資料出典：環境省）



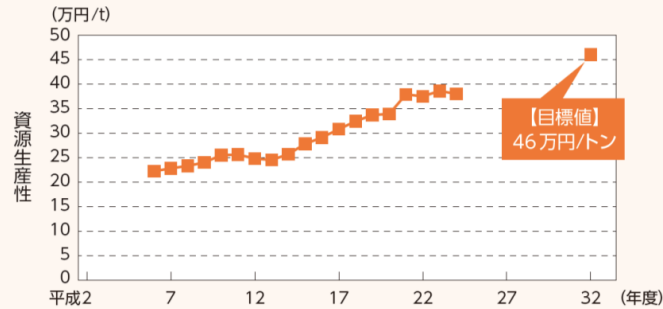
我が国における物質フロー(平成24年度)



資料：環境省

(注) 含水等：廃棄物等の含水等（汚泥、家畜ふん尿、し尿、廃酸、廃アルカリ）及び経済活動に伴う土砂等の随伴投入（鉱業、建設業、上水道業の汚泥及び鉱業の鉱さい）

循環型社会形成推進基本計画・三大指標(平成24年度)



資料：環境省

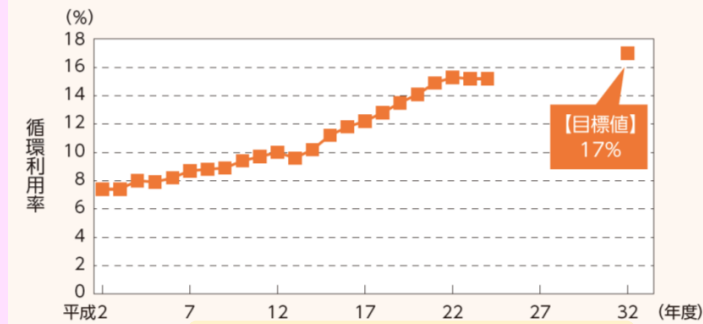
資源生産性の推移

○資源生産性

平成24年度の資源生産性(=GDP/天然資源等投入量)は、平成12年度と比べ約54%上昇。しかし、平成22年度以降は横ばい、平成23年度と比べると若干減少。

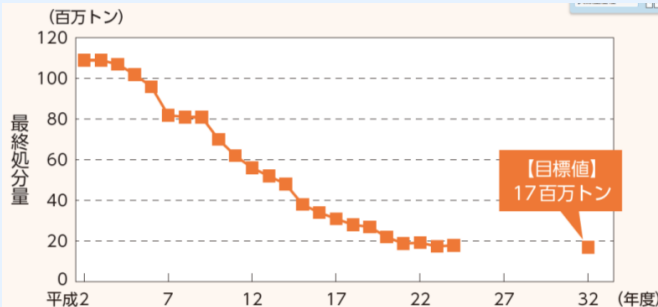
○循環利用率

平成24年度の循環利用率は、平成12年度と比べ約5.3%上昇。しかし、平成23年度以降は横ばい。



資料：環境省

資源生産性の推移



資料：環境省

資源生産性の推移

○最終処分量

平成24年度の最終処分量は、平成12年度と比べ約70%減少。しかし、平成23年度と比べると増加。

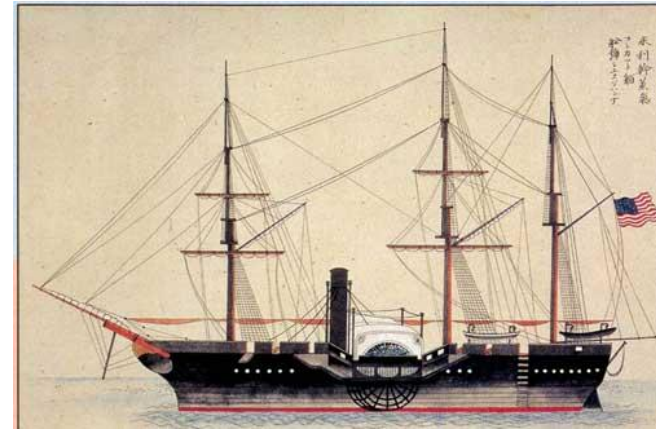
課題は何か？

- EUと比較すると、発展・展開のダイナミズムに欠けているきらいがある。
- 日本では、基本コンセプトを打ち出し、たたき、それを施策化するという動きになっていない。
- 審議会で行われているのは、既存の法律の単なる「見直し」に過ぎない。
- だから、個別リサイクル法の見直しでは、詳細に渡る議論あるいは利害関係に関わる議論ばかりが目立ち、施策の基本コンセプトに関わる議論がない。

基本コンセプトを問い直す時

- 今、循環経済作りの基本コンセプトを問い直す時が来ている。
- そうしないと、日本特有のガラパゴス化が進行し、極めていびつな、自己耽溺の世界が出来上がってしまいかねない。
- 新たな発展・展開の道が閉ざされてしまう。
- 自己改革を行えるかどうか問われている。

日本を新たな方向に展開できる人は？



「この人を見よ！」
日本にもこういう人がいた



めざしの土光さん！

土光敏夫は、国鉄、専売公社、電電公社の民営化を成功させた！こんな凄い展開があったのだ！